終連報丙第二六〇號

發 終連五部
受 [redacted]事務官
時間 五一五〇〇

昭和二十一年七月五日
總務課

情報 普通配布

引揚關係GHQとの連絡 七月二日

一沖縄人送還の件

昨日「バッチャース」大佐に手交した厚生省の希望事項に關し本件の研究に當つて居る「フアウスト」大尉は宇品（呉）を廣兒島と同時に使用することは考慮しやう、その爲體驗琉球人の全國分布表を參考として提出あり度い。又廣兒島は閉鎖されることになるから知れぬからその場合には佐世保を使用する考た。荷物を引揚民と別に送ることは手續を非常に煩雑にするからやりたくないと述へてゐた。

後刻更に「バッチャース」大佐及「フアウスト」大尉に會談し荷物を引揚民と一諸に送ることは鐵道輸送の技術上重大な困難がある、即ち鐵道では手荷物車が不足して居り又貨車は急行列車の「スピード」に堪へ得ない構造なので客車と共に同一列車に編成し得ないから各人二五〇「ポンド」の荷物を出發地から引揚民と同一列車に積込むことは出來ない。他方送出港で荷物を待ち合すことは大混雑を生ずることとならうとの趣旨を説明したところ「バ」大佐は更に本件を研究すへき旨答へた。其の際同大佐は朝鮮人に付

ては今度は荷物の別送輸送を認めることとならうと附言して居た。
それから「バ」大佐は指令の發出と實施との間にはどれ位の期間かほしいのかと問ふたのて厚生省では最少限度三十日を希望して居たと答へたところそれは問題にならぬ。當方としては一週間を豫定して居たが貴方の事情も考慮し二週間位にしようと述へた
送出港については「バ」大佐は最近は鹿兒島、及宇品を使用し毎週三、五〇〇人程度とし順次之を八、〇〇〇人位迄あける、但し鹿兒島は八月一日て閉鎖する考てあるから鹿兒島附近の琉球人の送出かすんた後は佐世保を送出港としたいと述へてゐた

二、受入港閉鎖の問題。

右の琉球人送還の問題と關聯し「バッチャース」大佐に鹿兒島閉鎖の理由を問ふたところ鹿兒島に於ては從來よりも日本政府より屢々施設不充分て困るとの申入れかあり又鹿兒島迄の汽車は非常に遅くて不便てあるのてその廢止を考へたのてあると答へ琉球人送出は人數も少いし吳を使ふことにすれは距離からいつても大差ないと述へた
其の際「バ」大佐は現在受入港は各地とも其の能力を餘して居るのて居るのて目下その中五港即ち鹿兒島、仙崎、唐津、門司及田邊の閉鎖を考慮中てあると述へた依つて滿洲北鮮よりの引揚か增加した場合の對策如何と問ふた所に多、佐世保、舞鶴等て充分賄ひ得やう、上海からの引揚はあと一週間、日本到着を基準としても精々二週間て終了するてあらうと答へた其の後「ハウエル」大佐が横濱から歸つて來たので別添厚生省よりの希望條項を手交し厚生省としては人員、物資の處理の關係上實際閉鎖迄に相當長い期間を置かれることを殊に希望して居ると述へた所「バ」大佐は自分は八月一日を目標として考へて居たのたかと言ひつつ主任官「バッジェス」中佐を呼んて右書類をわたし研究を命して居た

三、六月二十九日仁川發て京城からの臺灣人一名沖繩人二〇名乃至二十二名か博多に到着するから手配のり度い

四、「ストュワード」少佐に對し朝鮮から送還された囚人の件につき司法省の考を說明して其の意見を求めた所は本件は朝鮮米軍からの申越を取り次いたのみにて委しくは「リーガル」セクション」に問合せあり度いと答へた